

あし わ

# 足環をつけた鳥が 教えてくれること

鳥類標識調査のこれまでとこれから



入場無料  
申込み不要

定員  
250名

来場者プレゼント  
あります

## 基調講演

- 変わりゆく世界で鳥類の生態を調べるー鳥類標識調査データの価値ー  
(オルデンブルク大学 ウィーランド・ハイム)

## 講演

- 蓄積された100年データの活用  
ーパイオロギング時代に鳥類標識調査が果たす役割ー  
(森林総合研究所 青木大輔)
- カラスバトによる鳥移動の謎に迫る  
(国立環境研究所 安藤温子)
- 何が見つかる?鳥袋:標識調査を利用した鳥類生態の研究  
(金沢大学 大河原恭祐)
- 日本で越冬するユリカモメの渡りを読み解く  
ー標識調査とその応用研究からー  
(山階鳥類研究所 澤祐介)

## 総合討論



YouTubeでも  
配信します

2024年  
11月23日(土)

13:00 ▶ 17:00 (12:00開場)

東京農業大学 世田谷キャンパス  
農大アカデミアセンター 横井講堂

小田急小田原線  
千歳船橋駅・経堂駅から  
徒歩15分



主催 / 公益財団法人 山階鳥類研究所  
日本鳥類標識協会

後援 / 環境省生物多様性センター(予定)

公益財団法人 山階鳥類研究所

〒270-1145千葉県我孫子市高野山115

☎ 04-7182-1101

https://www.yamashina.or.jp



あし わ  
**足環をつけた鳥が  
教えてくれること**

鳥類標識調査のこれまでとこれから

● プログラム

- 12:00 開場
- 13:00-13:05 開会挨拶 (山階鳥類研究所所長 小川博)
- 13:05-13:10 趣旨説明 (山階鳥類研究所 水田拓)
- 13:10-14:00 基調講演  
(オルデンプルク大学 ウィーランド・ハイム)  
■ 変わりゆく世界で鳥類の生態を調べる  
—鳥類標識調査データの価値—
- 14:00-14:25 講演  
(森林総合研究所 青木大輔)  
■ 蓄積された100年データの活用  
—バイオロギング時代に鳥類標識調査が果たす役割—
- 14:25-14:35 休憩
- 14:35-15:00 講演  
(国立環境研究所 安藤温子)  
■ カラスバトによる鳥移動の謎に迫る
- 15:00-15:25 講演  
(金沢大学 大河原恭祐)  
■ 何が見つかる？鳥袋：標識調査を利用した鳥類生態の研究
- 15:25-15:50 講演  
(山階鳥類研究所 澤祐介)  
■ 日本で越冬するユリカモメの渡りを読み解く  
—標識調査とその応用研究から—
- 15:50-16:05 休憩
- 16:05-16:55 総合討論
- 16:55-17:00 閉会挨拶 (山階鳥類研究所 尾崎清明)

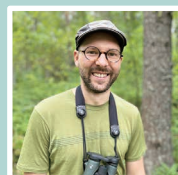
鳥類に足環などの目印をつけて放し、追跡する鳥類標識調査。日本で初めてこの調査が行われたのは今からちょうど100年前のことでした。以来、何度の中断はあったものの、日本の鳥類標識調査は粛々と実施され続けてきました。この100年間の継続でどんなことがわかってきたのでしょうか？そして、次の100年に向けてどんな発展が期待できるのでしょうか？本シンポジウムでは、国内外の研究者を招いてこの問いに挑みます。

● 演者紹介

オルデンプルク大学

**Wieland Heim** (ウィーランド・ハイム)

渡り鳥について調査する生態学者・鳥類学者。自然環境保全に根ざした研究を行い、鳥類に対する人為的な影響について調べている。アジアで10年以上研究活動を行い、極東ロシアでは鳥類標識ステーションの設立にも関わった。旧北区東部に生息する鳥類の渡り経路の解明に大きく貢献している。現在は、ドイツ・オルデンプルク大学の渡り鳥生態研究グループの一員として、農業が鳥類の渡りに与える影響も研究している。



森林総合研究所

**青木大輔** (あおき だいすけ)

1993年大阪府生まれ。中学・高校をベルギーで過ごした。北海道大学大学院理学院博士課程修了。博士(理学)。現在、森林総合研究所・任期付研究員。研究テーマは鳥類の分布や渡りの進化の歴史を紐解く生物地理学。日本列島のユニークな環境を活かし、遺伝解析やバイオロギングなど多様な手法を統合して研究を進めている。



国立環境研究所

**安藤温子** (あんどう はるこ)

京都大学大学院農学研究科で博士号を取得し、現在国立環境研究所に勤務している。小笠原諸島や伊豆諸島、スペインの離島などにおいて、鳥類の移動に関連した島嶼進化、生態系機能、保全に関する研究を行ってきた。国立環境研究所や青ヶ島での標識調査も行っている。



金沢大学

**大河原恭祐** (おおかわら きょうすけ)

埼玉県出身。北海道大学博士課程卒業。金沢大学生命理工学類生態学研究室・准教授。アリや鳥を材料とした行動生態学、群集生態学、保全生態学が専門。アリではウメマツアリ属の特殊な社会性について、鳥では渡り鳥による種子散布や鳥類の糞浴による疾患予防行動などについて研究している。



山階鳥類研究所

**澤祐介** (さわ ゆうすけ)

2010年より鳥類標識調査に参加。自身が東京で標識したユリカモメがロシア・カムチャツカで見つかったことをきっかけに、ロシアで繁殖する鳥類に強い興味を抱く。現在はユリカモメの他、コクガンを中心としたガン類の渡りルートを調べる研究を行っている。2020年より山階鳥類研究所の研究員に着任。



お問い合わせ

公益財団法人 **山階鳥類研究所**  
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115  
☎ 04-7182-1101  
<https://www.yamashina.or.jp>

主催 / 公益財団法人 山階鳥類研究所  
日本鳥類標識協会

後援 / 環境省生物多様性センター(予定)